

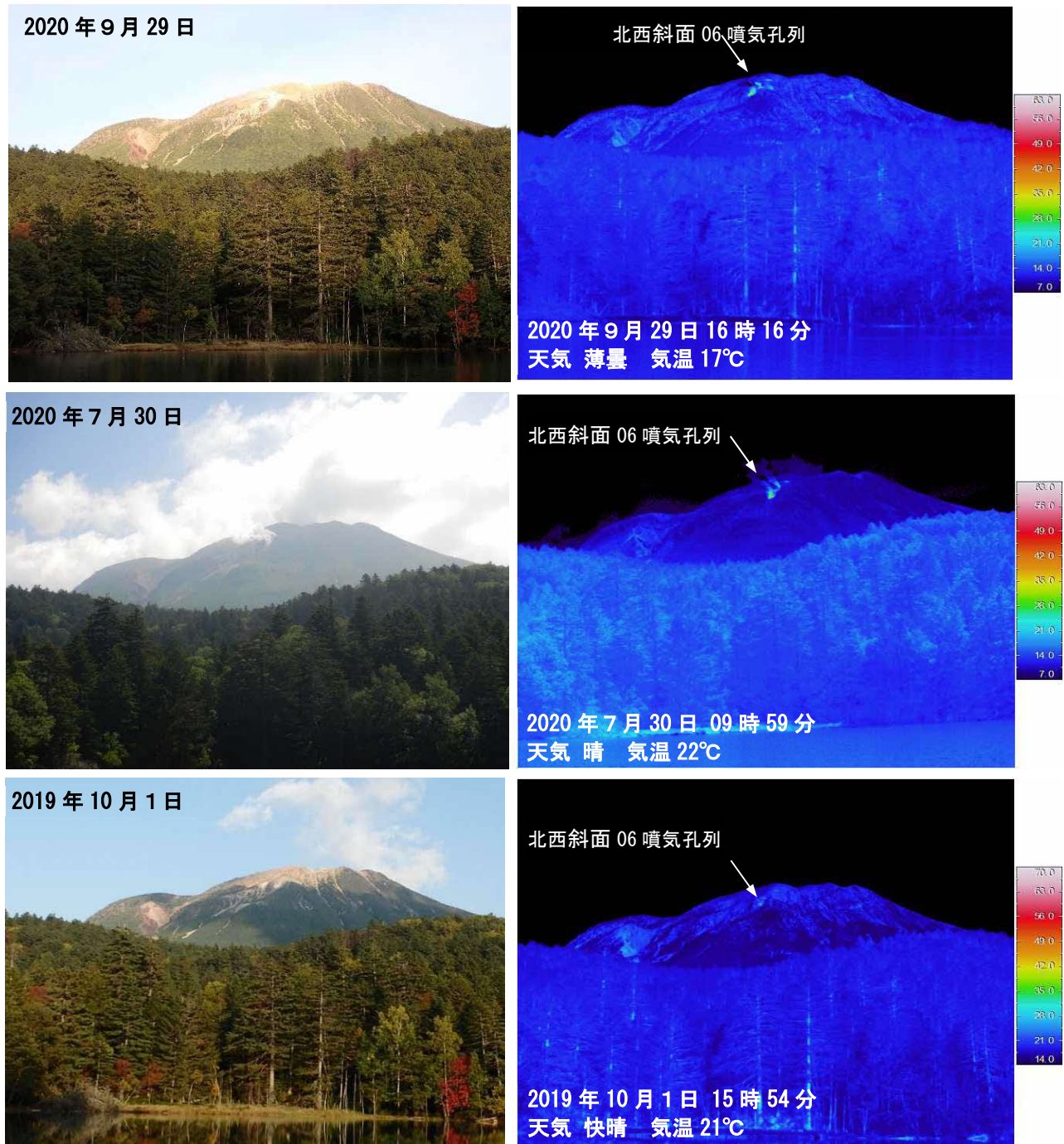


図10 雌阿寒岳 赤外熱映像装置による北西斜面06噴気孔列の地表面温度分布  
西側（図7の③）から撮影

- ・ 北西斜面06噴気孔列では、2020年7月の観測時に2019年10月よりも地表面温度が上昇し、噴気の勢いが増大しているのが確認されました。2020年9月の観測時にも、噴気孔列周辺の地表面温度が高い状態および噴気活動の活発な状態は継続していました。

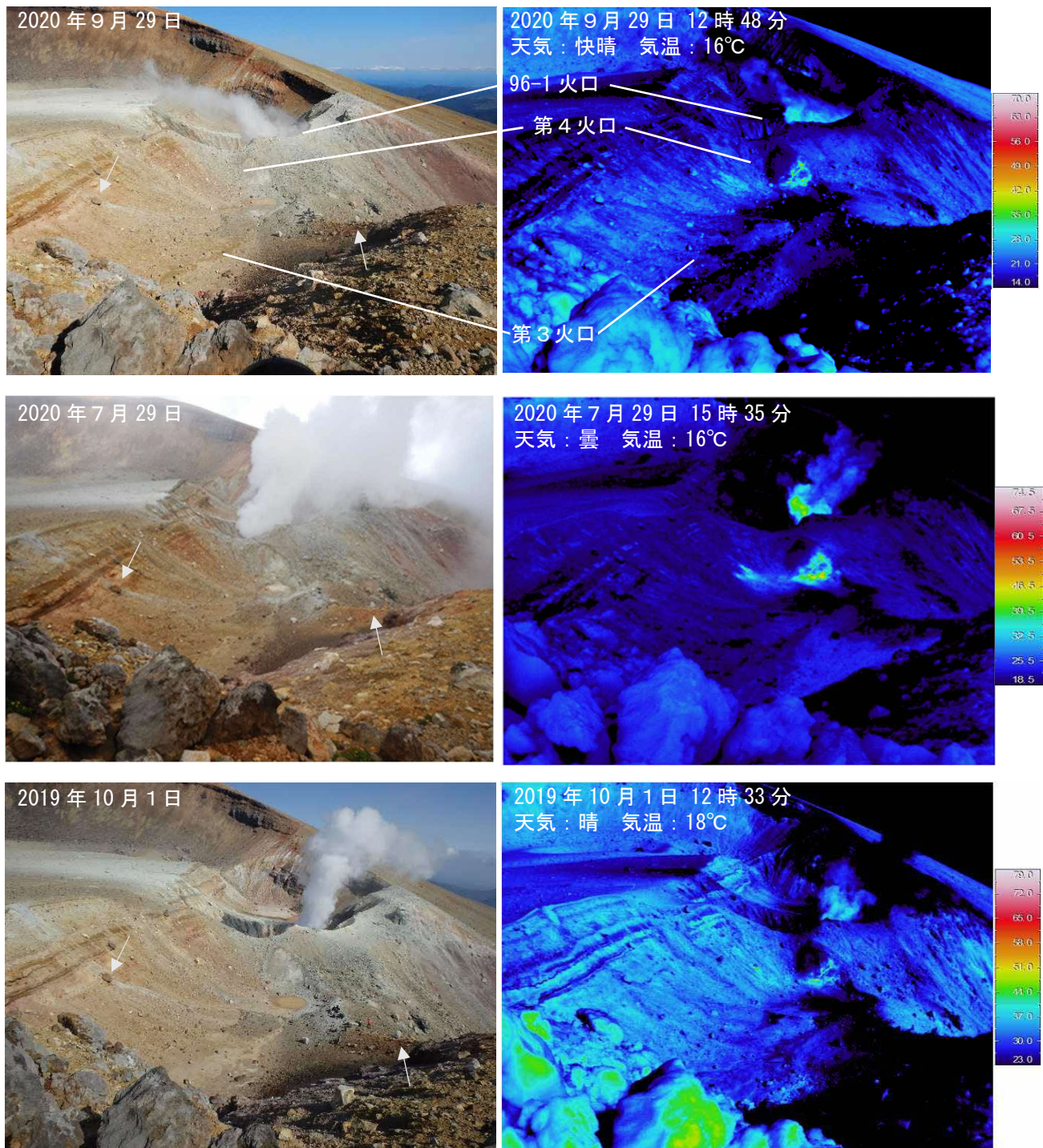


図11 雌阿寒岳 赤外熱映像装置によるポンマチネシリ第3火口及び第4火口の地表面温度分布  
西側（図7の④）から撮影  
白矢印は同じ岩を示す

・2019年10月と比較して、地表面温度分布や噴煙の状況に大きな変化はありませんでした。

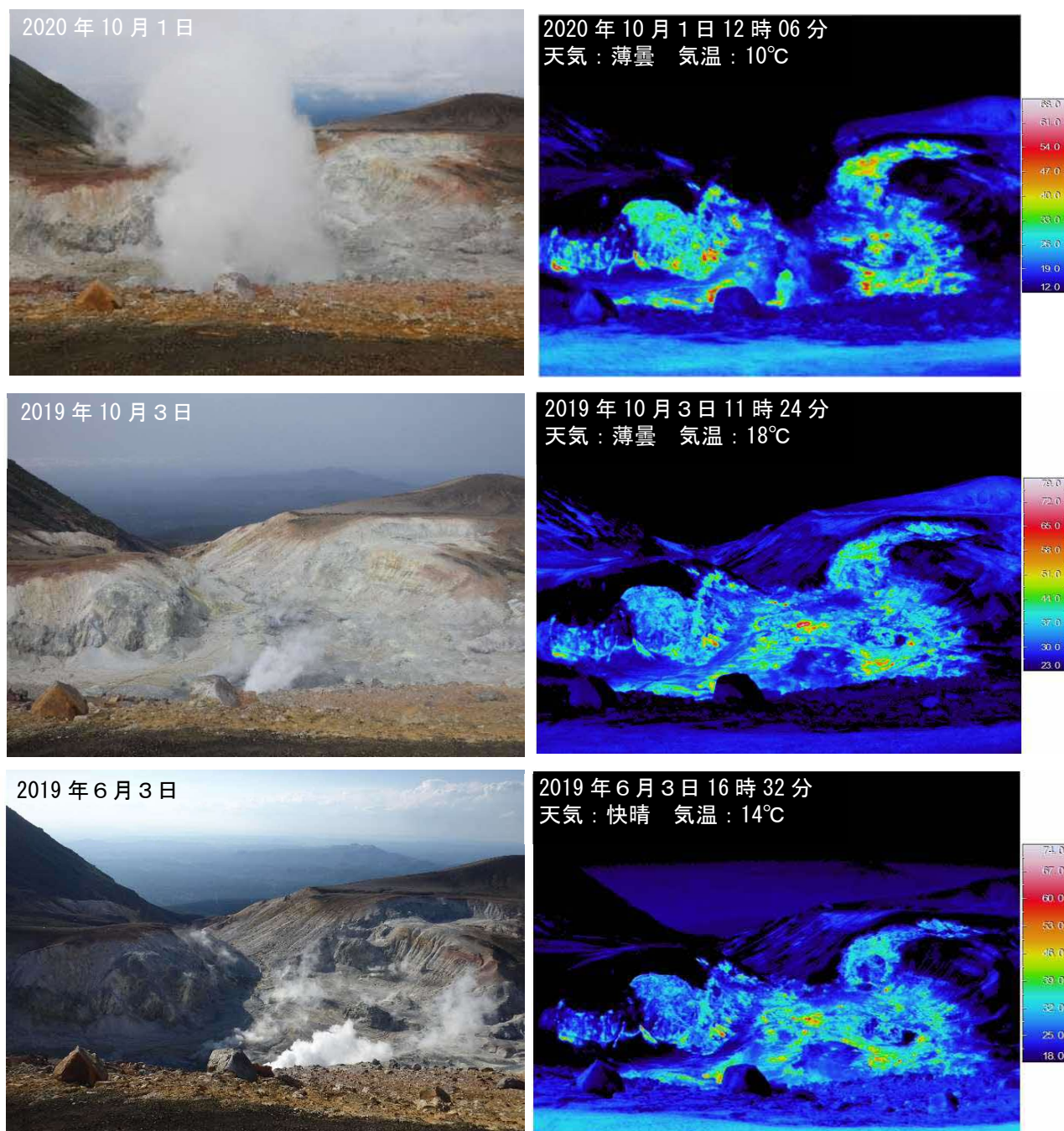


図12 雌阿寒岳 赤外熱映像装置による中マチネシリ火口の地表面温度分布  
南東側（図7の⑤）から撮影

- ・ 2019 年と比較して、地表面温度分布に大きな変化はありませんでした（2020 年 10 月の地表面温度分布は、噴気の影響で地熱域が捉えられていない箇所があります）。

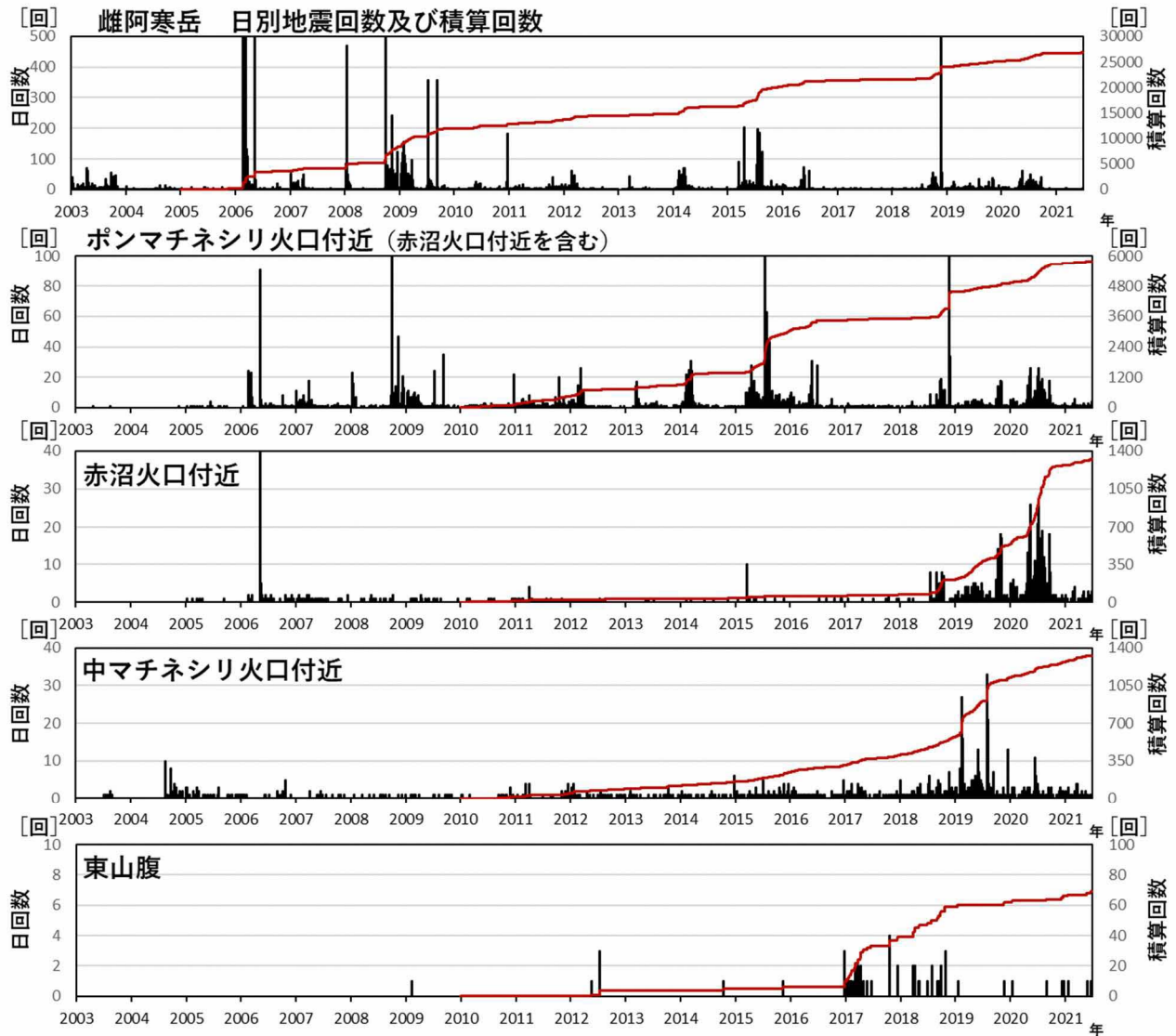


図13 雌阿寒岳 活動領域ごとの地震の日回数及び最大振幅（2003年1月～2021年6月）  
赤沼火口付近の地震とは、ポンマチネシリ火口付近で発生した地震のうち、赤沼火口付近で発生したと推定される地震を指します。東山腹の地震とは、主に中マチネシリ火口の北東～東～南東側の山腹付近で発生したと推定される地震を指します。

- ・ 赤沼火口付近の地震回数は、2018 年夏頃から多い状態で経過していましたが、2020 年9月下旬以降、少ない状態が続いています。
- ・ 中マチネシリ火口付近の地震回数は、増減を繰り返しながらも 2014 年以前よりやや多い状態で経過しています。

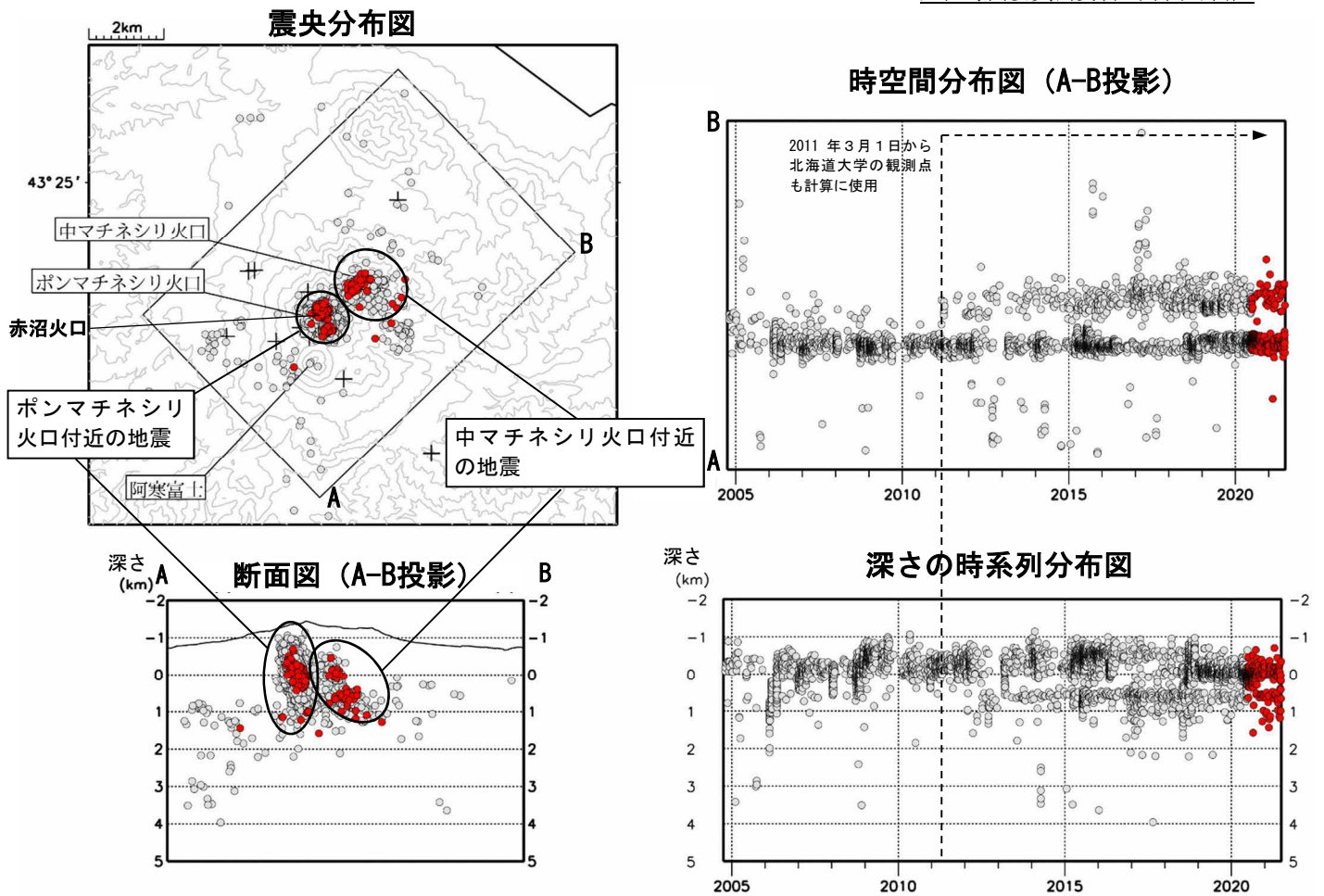


図14 雌阿寒岳 火山性地震の震源分布（2004年10月～2021年6月）

●印：2004年10月～2020年6月の震源  
●印：2020年7月～2021年6月の震源  
+印：地震観測点